
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 令和2年度 実施レポート

- 横浜市立 瀬ヶ崎小学校 × 中村大地..... 1
アシスタント：村岡佳奈、佐藤駿、河崎正太郎

- 横浜市立 浅間台小学校 × 山野安珠美..... 2
アシスタント：森梓紗

- 横浜市立 緑園東小学校・緑園西小学校 × 長井江里奈..... 3
アシスタント：北園優、鈴木綾香、ニシハラ☆ノリオ

- 横浜市立 上菅田特別支援学校 × 曾我大穂..... 4
ゲストアーティスト：スズキタカユキ、小金沢健人、角銅真実



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立瀬ヶ崎小学校 × 中村大地

自分や相手の気持ちを想像して伝えてみよう！

担当アーティスト 中村大地（作家、演出家）／アシスタント：村岡佳奈（俳優）、佐藤駿（俳優）、河崎正太郎

実施校 瀬ヶ崎小学校（金沢区）

コーディネーター 認定NPO法人STスポット横浜

実施科目・教科名 総合的な学習の時間

実施概要 体験型／創作／6学年2学級45名

実施日程 2020年10月23日(金)、2020年10月26日(月)、2020年10月30日(金)



授業のねらい

自分の気持ちや思いを恥ずかしくがらずに表現することができるようになるためのステップになれば。友達とならできるが、一人だと恥ずかしくて自己表現できないところがあるので、一人ひとりが気持ちや考えを伝えられる経験を重ねたい。演劇づくりをする前段階として、演劇とはどんなものか触れる機会を持ちたい。

主な内容

<1日目>想像することを主とした活動。アーティストが語るエピソードを、子どもたちが想像しながら聞き、そのとき一人ひとりの頭のなかでどんなことがイメージされたのかを共有。その後、一人が写真に写っている情景を言葉で説明し、他の人はその説明を聞いて写真の情景を想像して紙に描いてみるという活動を行い、できたものを友達と見比べ、それぞれが想像したことの違いやズレを楽しんだ。(クラスごとに実施) <2日目>自分以外の誰かの体験を自分事のように話す体験。子どもたちは4グループに分かれて、自分の体験を話す役、その話をあたかも自分が体験したかのように語る役を1人ずつ決める。まず、話し役が自分が体験した短いエピソードを話し、聞いていた人は気になったことを質問してエピソードを具体的にしていく。次に、そのエピソードを語る役が「あたかも自分が体験したかのように」語ってみる。その後、同じように語る役に対して質問をしていき、それぞれの想像していたことの違いやズレを楽しんだ。同様のことをグループ内で役割を交代して体験した。(クラスごとに実施) <3日目>4グループに分かれて、アーティストから語られた短い話の断片から、その前にどういうことがあったのか、その後どうなったのかなどを想像し、一人ひとり絵や言葉にして紙に書き、その後、グループでアーティストが語った話に肉付けをしていくように一つの話をつくり、それぞれ自由な形で発表して共有した。(クラスごとに実施)

アーティストから

私自身の拙い説明をよく聞いて、積極的に実行してくれる彼女らだったからこそできた、特別な3日間でした。先生方の「こうした自由なテーマでなんでもない話をするのが学校教育の場ではない」という言葉が印象に残っています。今回行ったワーク

は元々俳優向けに、台詞を発語する際、想像力をもっと働かせてもらうためにやったワークでしたが、瀬ヶ崎小のみんなには絶え間ない想像力がすでにありました。その想像力を表出する良い遊び道具になっていたら、とても嬉しいです。

コーディネーターから

瀬ヶ崎小学校の子どもたちは、積極的に手を挙げる子が多く、仲間たち一人ひとりの違いや特徴をすでに受け入れている印象を持ちました。子どもたちが写真の様子を説明する際、「左側に」と配置の説明をする子もいれば、「こっちに」とジェスチャーで説明する子、その説明をフォローし「左側ね!」と補足する子もいるなど、その子なりの説明の仕方があり、その特徴や面白さ、豊かさ気づかされました。アーティストたちは、子どもたちの絵や言葉を取り入れ、彼らが想像しやすいように、何色だった?この人はどう思った?その隣にいた人は?など、想像が膨らむように促し、グループに分かれて少人数で対話できたことが功を奏したように思いました。最後の発表では、主人公が住むアパートをみんなで見取り図や家系図を描いて発表するグループ、一人ひとりにせりふがあるグループなど、自由な表現で一人ひとりに役割がある発表となりました。

先生から

子どもたちが、教師以外の人からいろいろなことを教えてもらいながら経験を積み重ねることで、子どもたちの中に見えない力が蓄えられていくと考えています。今回の授業も、何ができたようになったということではなく、いい意味で子どもたちの心の肥やしになったと思います。12月の学習発表会にも何らかの形で生かされていくと思います。

子どもたちから

ふだんの生活に生かせると思った。例えば、友達との感想がちがったとき、その友達はどう感じているのかを考えられると思った。/いつもとちがったこと、なかなかしないことをして、いつもあきらめたり引いていたりして、ちょうせんできていなかったけれど、まちがってでもいいや面白くないという言葉にあってうさされて、やってみようと思った。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浅間台小学校 × 山野安珠美 箏に触れて作曲家 & 演奏家になってみよう

担当アーティスト	山野安珠美（箏演奏家）／アシスタント：森梓紗（箏演奏家）
実施校	浅間台小学校（西区）
コーディネーター	認定NPO法人STスポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5学年2学級50名
実施日程	2020年12月17日(木)、2020年12月18日(金)、2020年12月22日(火)



授業のねらい

昨年同様、一人ひとりが創造的な表現をつくりあげる体験をさせたい。学び合いのなかで、お互いを認め合い、協調し合って取り組む経験をさせたい。

主な内容

<1日目>はじめにアーティストより1曲演奏。箏柱を移動させた時の音、押し手がある時ない時の音の違いなど、1本の弦でもいろいろな音が出せること、また箏の構造や名称を説明。次に3人1組になり箏を体験。弾く時の姿勢や手の置き方などを教えてもらいながら「さくらさくら」を練習。その後、メロディ担当、ピッチカート担当、押し手担当を決め、1人1パートの演奏を練習して合奏した。(クラスごとに実施)<2日目>前回練習した「さくらさくら」の振り返り。次に、「音探しカード」に書かれた、子どもたちが見つめてきた音（カサカサ、サァー、ブォー、三角や螺旋状の図形など）をアーティストがいろいろな奏法を使って箏で音にしてみることを行った。その後「コーロリン」「サーラリン」など口唱歌をアーティストが弾いて紹介し、音がどのように聴こえるか？を子どもたちに感じてもらった。アーティストによる「汽車ごっこ」の演奏を鑑賞した後、実際に子どもたちも3人1組のグループで曲を創作した。(クラスごとに実施)<3日目>前回の作曲の続きを行い、できたものをグループごとに発表、全員で聴き合った。その後、アーティストによる2面の箏による演奏、浅間台小学校校歌の演奏を鑑賞した。(クラスごとに実施)

アーティストから

昨年に続き3人1組で、作曲する→譜面に書く→音にする、を実践しました。シンプルな楽器だからこそアプローチの仕方は無限大。例えば一つの音でも奏法次第で音色は何通りもあり、組み合わせ方を変えてゆけば、小さなメロディーがさまざまないろに変化します。“作曲”ときいても怯むことなく、次々うまれる自由な発想と挑戦は、歴史をつくった先人たちの、箏を前に冒険し続けた姿に通ずるものがあるのではないかなと感じます。

コーディネーターから

子どもたちは、「さくらさくら」の早く演奏する箇所や押し手の弦の硬さに苦戦しながらも、子どもたち同士で教えるなどして熱心に練習を重ねていました。作曲時には「曲を途中から作っても良いよ」「即興でその時に思ったことをやっても良いよ」「早く弾いてもゆっくり弾いてもOK」とアーティストから教わり、作曲の幅の広さを少しずつ感じ、それを曲作りに生かそうとしていました。子どもたちの楽譜には、ここは「カッコつける(=格好つける)」と書いてあったり、「★コンコン(=箏を叩く)」「◆シャー」など自分たちでマークを決めて書くグループもありました。発表では、アーティストが演奏時にやっていた箏の裏を叩く奏法を取り入れてリズムのように叩いてから始めたり、「すり爪」の奏法を取り入れたり、「さくらさくら」をアレンジしたり、台風をテーマにしたリ、箏柱の上の弦だけを指で叩いて音にしたりと、鑑賞している側も「こんな弾き方あったんだ!」と発見になり、箏の面白みや表現の豊かさを教えてもらいました。短い時間のなかで「チームでなんとかする力」にも、驚かされました。

先生から

昨年に続き2年目でしたが、同じ演奏家の方に来ていただきありがたかったです。2年目ということで、私自身も先生の意図がより深く理解できていたので、とてもスムーズに活動が進みました。山野先生、森先生の演奏が本当に素晴らしくて、子どもたちの心にとっても沁み渡るような様子が、実感として伝わってきました。活動も充実し、子どもたちも大変満足していました。私自身も個々の子への声掛けの仕方や活動の組み立てなどたくさん勉強させていただきました。

子どもたちから

先生方の弾いてくださった「校歌」がすてきだった。／いつか先生みたいに弾けるようになりたい。／3人で協力して作曲家になるのが楽しかった。／演奏(発表)してみんなからの拍手がうれしかった。／全部の経験が心に残った。／また来てほしい。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立緑園東小学校・緑園西小学校×長井江里奈 ダンス・音楽・美術を使って遊び尽くそう！

担当アーティスト	長井江里奈（ダンサー、演出家、ワークショップファシリテーター）／アシスタント：北園優（ピアニスト、パフォーマー、楽曲制作）、鈴木綾香（ダンサー、振付家）、ニシハラ☆ノリオ（かぶり物アーティスト、造形作家、舞台美術家）
実施校	緑園東小学校、緑園西小学校（泉区）
コーディネーター	認定NPO法人STスポット横浜
実施科目・教科名	図画工作、体育、音楽
実施概要	体験型／身体表現／個別支援学級 24名
実施日程	2020年11月4日(水)、2020年11月19日(木)、2020年11月20日(金)、2020年11月25日(水)、 2020年12月3日(木)



授業のねらい

みんなで身体を動かしたり、音を奏でたりして、表現する楽しさを感じられる内容。再来年度（令和4年度）から学校が統合するので、東と西の子どもたちが仲良く交流する機会としたい。

主な内容

<1日目>アーティストによるパフォーマンスを鑑賞。ピアノの音に合わせて、「グニャグニャ」「ピョンピョン」などのお題に沿って身体を動かしてみた。その後、長いゴムの両端をアーティストが持ち、クロスしたり動かししたりしたゴムの中を子どもたちがぐるワークを行った。<2日目>子どもたちは「くも工場」の工具として、新聞紙を丸めたり折ったり、いろいろな色のガムテープで彩った「くも」をたくさん作り、段ボールベルトコンベアに乗せて「納品」していった。
<3日目>前回作った「くも」、雨に見立てた紐やテープを体育館のギャラリーから吊るした紐に裝飾した。最後に裝飾したものを空中に引っ張り上げ、揺らしたりしてみんなで鑑賞した。
<4日目>4つの島に分かれて、マラカスや木琴などのいろいろな楽器を存分に手にして鳴らしてみた。小さく鳴らしたり大きく鳴らしたり、島ごとに、リーダーのリズムに合わせて、それぞれの楽器を鳴らしてセッションしてみる活動を行った。最後には自分の島を出て、他の島にいるいろいろな人と楽器を使って挨拶してみた。
<5日目>これまで体験した要素を全て盛り込んだお祭り。子どもたちはガムテープや新聞紙を使って衣装作りをした後、音楽、踊り、造形の各担当アーティストに導かれたら、アーティストと一緒にそれぞれジャンルの役割でお祭りを盛り上げる手伝いをした。最後に、2・3日目で作ったくもと雨のカーテンの下で、みんなで一つの円になり、ピアノの演奏に合わせて雨の踊りや水たまりを避ける動作をしてみたり、寝転がってみたりして、みんなで作品を楽しんだ。

アーティストから

事前の打合せで、今回のテーマは「遊び尽くす」になりました。5回の実施で経験を積み上げるのではなく、ダンス・音楽・美術と毎回違

うジャンルで遊び方のヒントだけを渡し、それをどう遊ぶかは大部分を子どもたちに任せました。結果、ガムテープを貼ることに熱中する子、ひたすらに走り回る子、楽器を鳴らし続ける子、BGMに興味を持つ子、それぞれのフックやセンスを発見する場になったと思います。ハラハラする場面もありましたが、思い切って枠を外してみないと見つけられない可能性があると感じました。

コーディネーターから

子どもたちにとって得意なこと不得意なことがあったと思いますが、まっすぐに自分の興味のあることをする姿がとても魅力的でした。示されたゴールがないことでも、何かを作りたい！こう演奏したい！と、その子なりにその動きや感触などを楽しんでいたように思います。アーティストも「なるべく自由に」「ダメと言わないように」と、彼らの創造の場をサポートしていました。テープや紐で縄跳びをしたり、壁にまで延ばしてガムテープを貼り付けたりする子もいて、普段の授業ならダメと言われてしまう／言ってしまうことが多いですが、その中でも子どもたちの遊びや交流が生まれていること、禁止することでは何も生まれず、彼らの創造の機会を奪っているかもしれないということに気付かされました。

先生から

学校の枠の外での活動の良さと子どもたちの相性の良さを感じました。授業や学校生活以外の子どもたちの良さなどを見つけることができました。今回はアーティストさんやコーディネーターさんと打合せをする時間が取れたのでとても良かったです。回数も5回にしていたでいて、とても良かったです。

子どもたちから

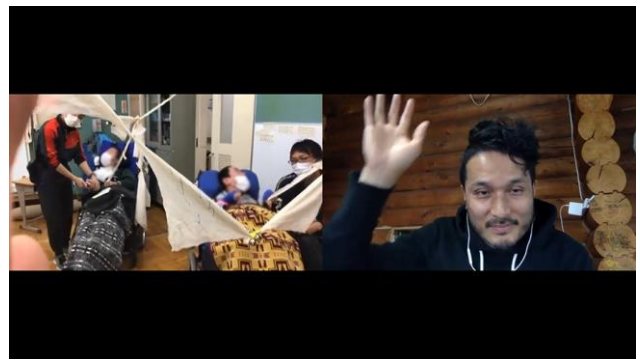
くもをつくったこと、おどったことが楽しかった。／またおまつりやりたい。／いしよう作りが楽しかった。／ママがいてもがんばった。／くもこうじょうのくもをつくったのが楽しかったし、がっきであそぶのも良かった。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上菅田特別支援学校 × 曾我大穂 どこか遠くへ旅に出て、知らなかった感触に出会おう

担当アーティスト	曾我大穂（音楽家、多楽器奏者）／ゲストアーティスト：スズキタカユキ（デザイナー）、小金沢健人（作家）、角銅真実（パーカッション奏者、シンガー・ソングライター）
実施校	上菅田特別支援学校（保土ケ谷区）
コーディネーター	認定NPO法人STスポット横浜
実施科目・教科名	音楽、美術
実施概要	体験型／創作／高等部1～3学年14名
実施日程	2021年2月9日(火)、2021年2月16日(火)、2021年3月2日(火) ※動画視聴日



授業のねらい

「感覚を媒体とした身体意識の形成」「社会性、認知、コミュニケーション能力の拡大」を重点に、普段なかなか体験できないような授業を期待。

主な内容

<1日目>「布をつかってサーカスのような空間をつくる」をテーマに、布を裂いたり切ったりして布の感触を楽しみ、裂いた布に色をつけ、結んで繋げてサーカステントのように教室を飾り付けた。後半は、動画のパフォーマンスを見ながら、旅のサーカス団のテントのような空間で布を引っ張って揺らしたり、小物楽器を鳴らしたりして楽しんだ。<2日目>「布をつかって彫刻のように形を変えることを楽しむ」をテーマに、裂いたり切ったりした布を、自分や誰かに飾りつけ、彫刻のように刻々と形を変化させていくことや、揺れる布の様子を、動画のパフォーマンスとともに楽しんだ。<3日目>「音と光の動きを楽しむ」をテーマに、万華鏡のようにどんどん変化していく不思議な映像と、風の音のように長く持続する音によるパフォーマンス映像を、教室を暗くして、スクリーンに映して楽しんだ。また、「音と声とリズムを楽しむ」をテーマに、生徒たち一人ひとりの名前を使って即興演奏した動画を見ながら、小物楽器を手に、名前の語感や、発音の質感を味わいながら音で遊んでみることを共有した。

※緊急事態宣言の発令に伴い、教員以外への入校が不可となったため、動画と材料を提供して、教員による実施に代えた。その様子をビデオ通話ツールで芸術家と共有し、オンラインでやりとりをしながら進行した。

アーティストから

今回は感染症対策のため、スタジオで収録したワークショップ映像を託すという形となり、その場を感じ取りアレンジし進めていくことが好きな私としては、中々難しい状況だったのですが、どうやったら映像だけでも伝わるのか、楽しんでもらえるのか等を思索し工夫していく中で、新しい思いがけない発見もいくつか見つけたり参加できてとても感謝しております。重度重複の障害を持つ生徒たちと関わり合うことができるこのプログラム、講師であるはずの私自身が、準備段階か

ら生徒や先生たちからさまざまな“気づき”や“学び”をもらえることができるとも貴重な時間でした。コロナが収まった暁には、学校で対面でのワークショップも実現できたら、と願っております。この取組、もっともっと大きく広がりどこまでも長く続いてほしいです。

コーディネーターから

1月に緊急事態宣言が発令され、外部の講師の入校ができないこととなり、急遽、動画教材を撮影し、布などの材料、簡単な指導案のようなプラン書と共にお送りして、先生方に実施をいただきました。ZOOMで活動中の様子を見ることはできましたが、目の前で演奏ができていたら、反応を受け取れていたらと、直に会って互いに影響を与え合うことのできる機会そのものの力を、改めてみんなが痛感することとなりました。最終的には動画教材による実施となりましたが、感染症対策を施しながらの実施に向けて「アーティストのアイデアをどうやったら実現できるか」を、先生方も一緒になって考えていただけたことが大変ありがたく、アーティストによる授業をなんとか生徒たちに体験させたいと、この取組に価値を置いて取り組んでくださったことをうれしく感じました。

先生から

対象が重度重複の障害を持つ生徒のコースでしたが、コーディネーターのSTスポット横浜さんやアーティストの曾我さんが、生徒らにできることを一緒に考えていただき、実りのある授業となりました。今回は感染症対策として、アーティストが作ってくれたVTRを見ながらの授業となりましたが、説明も丁寧で分かりやすく、実際に来てもらえたらより充実した内容となったのではと感じています。

子どもたちから

もっとたくさん布を裂いてみたい。／裂いた布を身につけるのが面白かった。